

広報
第21号

上野東部だより

2012年2月15日

発行

東部地域住民自治協議会

総務広報部会

伊賀市緑ヶ丘本町1681-8

上野東部地区市民センター内

TEL・FAX 24-3999

みどり保育園児と老人クラブ 園児と爺いじ、婆あばとの ふれあい



昨年11月11日、みどり保育園において、園児と東部地区老人クラブ連合会(東老連)の会員が交流会を開催しました。会場に入ると舞台には“東部地区老人クラブさんとの交流会”のプログラムに思い思いの絵が描かれた、手作りの垂れ幕が掲げられていました。

東老連・宮田会長と福永園長の挨拶交換のあと、かしのみ園児も含めて年長さん(5歳児)40名の園児と老人クラブ会員40名弱の交流が始まりました。

早速園児たちは、満面の笑顔でお遊戯『にんにん体操』や、元気いっぱいの歌『真っ赤な秋』などでおじいちゃん、おばあちゃんの園訪問を歓迎してくれました。

(次のページに続く)

お遊戯や歌で歓迎

伝承あそびの時間は、園児たちがやりたい遊びのグループに分かれて、紙飛行機を作つてお年寄りと飛ばし合ったり、長く空中に浮く紙飛行機に拍手や歓声も聞こえる盛り上がり。また、けん玉やコマ回しにもやる気満々の園児たちが懸命に挑戦。コマを手のひらに受けて回すおじいちゃんを見て「すご！」と。あや取りやお手玉、折り紙ではおばあちゃんが子どもの頃を思い浮かべながら手取り足取り教えつつ一緒に遊びました。

給食は、園児とお年寄り各2名の4名が机を囲んで二つの教室でカレーライス。わたしの机で一緒になった女の子は、始めはチョット恥ずかしそうだったが、いろいろと話しかけるうちに打ち解けて、笑顔を見せながら「妹がいるの」とか「お母さんは夕方しか帰ってきやへん」など園児の日常を話してくれました。

ダンスをしたり、手づくり絵本『はらぺこあおむし』を聞いたりしました。園児が飛んできて、肩をたたいたりもんだりしてくれました。



ありがとう、元気をもらって

遊びつつも参加者は「きょうびの子は、ハキハキして気持ちが伝わるわ」「子どもたちに遊んでもうてるみたいや」と口々に。

最後は、園児たちが牛乳パックで作った鉢に植えたなでしこの苗を、参加者一人ひとりにプレゼントしてくれました。給食で向かい合わせた女の子が、満面に笑みを浮かべながらわたしにプレゼントを差し出し、「ありがとう」と、そして「また会えたら…。さいなら」と互いの別れを惜しみました。

4月からは1年生になるだけあって、参加者は、「しっかりしてる」「1年生になるのが楽しみやナ～」と、思いを口に『元気をもらって』園を後にしました。

〈取材・杉本秀行〉



笑って 考えよう 身近な人権 —人権啓発部会—

12月2日、緑ヶ丘本町公民館で人権落語の講演会が、講師に切磋亭琢磨氏を招いて開かれました。この講演会も今年で6回目を迎え、楽しみにしている顔なじみのファンも多く、にぎわいました。

当日は笑いあり、涙ありの3部構成でたっぷりお話を聞かせていただきました。1席目は、四方山話を交え小噺で会場を笑いの渦に、2席目は、病と闘いながら残念にも短い生涯を閉じた教え子の話。その家族・学級の子どもたちとの悲しくも輝きを放った実話で、会場の空気が一変、感動で目頭を押さえる姿もありました。3席目は、古典落語を軽妙な語り口で、再び場はなごやかな雰囲気になりました。

人生は笑いを忘れないことでストレスをためないことが大切で、いつも前向きに考えることが健康につながる最良の秘訣だと諭されていました。元小学校の教師らしく子どもの作文を取り上げ、忍耐と感謝、命の大切さなど、日常に起こる身近な人権問題についての独演会でした。

緑ヶ丘中町の70歳代の女性は身内を看取った経験からか「笑いにきたのか、泣かされに来たのかわからへんワ」と感動した様子でした。

〈取材：服部孝繁〉



切磋亭琢磨氏





わが町 緑ヶ丘東町

住んでいて良かったと思える町に

私たちの町は、緑ヶ丘5町の中で、人口も面積も一番小さく、これといった法人もありません。中心部に、今はあまり利用されていない根本坊池がありますが、時々ルアー釣りをしている人を見かける程度です。この池を水利組合の了解を得て、3分の2程度埋め立て、児童公園にすることと、災害時の避難場所として元県立上野商業高校の体育館の存続を当局に強く要望していきたいと考えています。

アパート・マンションの多い町ですが、一戸建て住宅の造成がJAによって根本坊池の北側でまもなく始まります。再開発に期待したいと思います。

町内には、授産施設としてパン工房「モンマール」、障がい者宿泊施設「ココウット」、老人福祉施設「かがやきの里」があります。

活動については各団体やサークルの皆さんとの協力を得ながら種々取り組んでいます。



小学生の安全な登校のために、扇港電気交差点と自衛隊事務所の交差点でのパトロールを有志の方で実施しています。また、寿齢会（老人会）と青年会では年に5～6回、町内のクリーンウォークを自主的に行っていただいているいます。

福祉の面では、月1回の「いきいきサロン」の行事は、普段出歩くことの少ない高齢者の楽しみとなっています。

スポーツの関係では、何といってもグラウンドゴルフが活発です。天気の良い日は緑ヶ丘中町・東町合同のクラブとして交流しています。また、ターゲットバードゴルフの大会を年1回町主催で行います。

今後は、若い人たちの力をいっそう借り、少しでもこの町・緑ヶ丘東町に「住んでいて良かった」と思えるような街づくりを目指していきたいと思っています。



半田政次自治会長



学び合い育ち合う学校に

木目調で統一された校舎は、中庭を囲むように口の字に建てられており、とても開放的。廊下は広く、中庭から届く光を感じながら、児童たちは休み時間に話を交わしたり、給食時には配膳に利用したり、参観日には多くの保護者が集まる。多目的に活用されています。

谷口校長先生は、「地域の学校」という存在をとても大切に考えて、さまざまな地域の教育力を積極的に学校教育の中に取り組む努力をしています。読み聞かせをはじめ、昔の遊びの伝承、図書、英語、下校サポート、低学年の掃除の手伝いなど地域（校区）の人の力を借りて学習ボランティアとして迎え入れています。

子どもたちが社会人として、職業人として自立していくようにと、学校で取り組まれているキャリア教育では、近隣の緑ヶ丘中学校、伊賀白鳳高校、上野高校などと連携し、交流のなかから学び、目標を作り、創造する力を育んでいます。修学旅行では、従来の寺社めぐりに加えて大学でのキャンパスツアーや体験し、大学生との交流もしています。また、専門的な分野からの

ゲストティーチャーを招き、授業も行われています。取材のこの日は、ジュード先生の英語による会話の時間があり、児童たちはとても楽しそうに本物の英語にふれて学んでいました。

上野東小学校は、小学校という枠の中で学習するのではなく、「地域の学校」として地域の力を取り入れて、動きのある教育を実践しているという印象を強く感じました。ある保護者は「ボランティアさんや校区の中高校生の先輩など、子どもが無意識のうちに自然と地域の人とつながっている環境にある東小に通えて、幸せ。」と満足そうに話す顔が印象的でした。

〈取材：松永真知子、田山干城〉



中庭コンサート



英語授業

伊賀市立上野東小学校

Ueno Higashi Municipal Primary School
Escola Primária Municipal Ueno Higashi
Escuela Primaria Municipal Ueno Higashi



中庭から東を見る



谷口 校長

学校の概要

生徒数／563人（内、外国人児童56人）

学級数／24学級

校 区／桑町、恵美須町、茅町、池町、田端町、伊予町、車坂町（以上「上野」略）、
緑ヶ丘5町、生流里、下友生の一部、南西明寺、ニュータウン

学校像／子どもも教師も、学び合い育ち合う学校

連絡先／☎21-0314

市長に要望書提出

去る1月27日、東部地域住民自治協議会運営委員会で、今高会長から旧上野商業高校跡地について左記のように提案され、満場一致で決議されました。なお、この件は、4ページの緑ヶ丘東町 半田自治会長からも提起されているところです。



伊賀市長 内保 博仁 様

上野商業高校跡の有効活用について要望書

具体的な内容

閉校になつた県立上野商業高校（以下、上野商業）の建物及び土地を県から市が買い取り、教育・文化・スポーツの発信基地として市民に開放されたコミュニティー施設にすることと、災害時の第1次避難場所として引き続き利用していくことを求めます。

具体的には、子育て支援サークル、読み聞かせ教室などの子どもを育む場、生涯学習などの教育の場、芸術作品の発表といった文化交流会場、スポーツ少年団や各種スポーツでの利用など多彩な利用をすることができます。

いずれにせよ、上野商業高跡を利用し、市民に開かれた施設をつくることが東部地域発展の一つの重要な課題であると同時に伊賀市の将来を見据えたとき、なによりも子どもの心身の健全な育成と、現在、社会問題になっている高齢者が憩える施設の充足を考えなくてはならないものです。

平成24年2月1日

東部地域住民自治協議会

会長 今高 一三

16 自治会長連名で各押印

託す



①

②

総務広報部会としては、会員皆様のご支援を受け、東部地域が住みよい街となるよう広報を通じ3回発行しました。会員は、取材して記事を書き、発行ごとに編集会議を各3回以上開いて校正するという作業を繰り返しました。最後の号の編集を終えほつとしています。寒さ厳しい中にも春のきざしが感じられる頃となりました。ご覧いただきありがとうございました。 (田山千城)

【訂正】 第20号6ページ下段、妙昌寺の記事中、「鬼死母神」を「鬼子母神」にお詫びして訂正します。

編集後記

